

A. コースワークの充実・強化

⑥その他

●青山学院大学 国際政治経済学研究科

「グローバル・エキスパート養成プログラム」の事例 <人社系>

具体的に何を実施したのか

グローバルエキスパート人材の養成には、英語力と社会科学の原理論の基礎理解は不可欠である。これに加え実践的な経験を積ませなければならない。限られた期間でこれだけの豊富な内容を身に付けさせるには、組織的なプログラムの組み立てを工夫しても限界がある。そこで当プログラムでは、学部上級学生カリキュラムとの連携を取り、実質的な研究期間を3年で修了できる組み立てを工夫した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

研究科と直結しない文学部や法学部等の他分野の学生、修士課程入学前の準備段階の社会人、さらには学部留学生等にプログラムの聴講を認め、入学後その科目履修を単位化する工夫をした。これにより実質的な学びの期間を延ばすことができたし、受講生も事前的な受講体験をすることができた。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

中でもきわめて有効であったのは、学部学生の先取り履修制度であった。グローバルエキスパート志望の学生はことのほか学部学生に多く、彼らの学部での学ぶ機会を拡張でき、早い段階から意識と経験を伸長させることができた。この結果、複数の学部から複数の学生が院に進み、研究を実質的に3年間することができた。また、在学の院生にとっても、学部生への指導という二次的学びへの機会を得るといって、予想外の成果が得られた。

●東京工業大学 情報理工学研究科計算工学専攻

「情報学と生命医学の発展的融合教育の新展開」の事例 <理工農系>

具体的に何を実施したのか

米国において National Centers for Biomedical Computing 計画の拠点機関として採択されているハーバード大学医学部と協議を持ち、本教育プログラムの中にハーバード大学で行われているトランスレーショナルリサーチに関する講義を取り入れ、本教育プログラムの担当教員と共同で、コースの一部を構成し、教育を行った。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

医歯学関係に専門で無い学生が聞いても理解できるよう、日本側で内容に関する

フォローを行い、学生の理解を助けるよう工夫をした。また定期的に共同セミナーを開き、学生に刺激を与える機会を多くするよう努力した。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

学生にとっては、評価の高い海外の大学の講義が聴けることということで、大変学習へのモチベーションが上がっていた。医学、コンピューティングそれぞれの分野がいかに強く関係しているかについても、新鮮な視点を学生は持つことができたとの感想があった。また間接的ではあるが、この共同教育作業が、教官にとっても異分野のより深い理解を促進する良いFDの機会となった。